

第1章

SS課題研究 I

尾方 英美

(1) 仮説

身近な疑問から、自然科学・ものづくりに関する体験活動を中学段階で扱うことで、探究する心が育ち、高校で行う仮説検証型課題研究「SS課題研究Ⅱ」に繋げることができると考えられる。プロジェクト学習を通して、興味関心に基づいた観察・実習を主体とした研究から、仮説検証を主体とした探究へと段階的に移行することにより、高校での探究が着実な成果をあげることができる。また、多岐にわたる分野に接するので、高校で行われる課題設定に有機的につながっていくことが期待できる。

(2) 実践

中学2年と3年の2年間で、半期ごとに10講座の中から4つの講座を選択する。また、十分な時間を確保するために、2時間(50分×2)連続した授業を展開する。

中学2年生では、理科、技術、体育、社会、国語の5講座から、中学3年生では、数学、美術、音楽、家庭科、英語の5講座から、興味関心のある講座を学ぶ。高校でのSS課題研究Ⅱ(自然と科学、生活と科学、心身と科学、創造と科学)とに密接に結びつくための講座を設定し、基礎的な研究を実践する。

講座内容一覧

講座名	教科
1. 身近な生物の観察	理科
2. 木のおもちゃをつくろう	技術
3. 附属オリジナルスポーツ	体育
4. 地図で楽しむ(基準とは何か)	社会
5. 『源氏物語』を読んでみよう	国語
6. 数学を探究しよう	数学
7. CGで表現しよう	美術
8. 音楽をみんなに届けよう	音楽
9. 藍の絞り染めTシャツを作ろう	家庭科
10. 映画の英語表現を学んでみよう	英語

1～5が中学2年生、6～10が中学3年生の講座である。

(3) 評価

2時間連続で行うことは、非常に効果的であるといえる。1時間で新しいことを学び、1時間で実践につなげるという使い方もできるし、2時間たっぷり使ったの鑑賞や、準備から実験、まとめまで、50分の授業ではできない流れを作ることもできる。そのことにより、生徒たちは新たな課題を発見し、さらに興味を広げることができた。例えば、数学では、生徒が自ら課題を設定・探究し、発表をしたが、その際、他の生徒に対して問いを用意させた。そのことで、一方的な発表ではなく、発表者と聞き手が意見を交換し合い、生徒全体で課題を共有しやすくなった。

しかしながら、生徒自ら課題を見つけることは難しく、より興味深い課題選びのポイントや課題例の蓄積などが必要となってくる。また、深く取り組みば取り組むほど、半期というサイクルが短く、SS課題研究Ⅰで学習したことをどのようにそれぞれの教科へ、また、次のステップであるSS課題研究Ⅱへとつなげていくか、カリキュラムを含めて今後改善をしていく必要もある。

(文責 尾方英美)